



すまいるだより

vol 26

「脳の多様性という考え方」

【子育てのご相談】

子育て世代包括支援センター
「えがお」(健康福祉課内)
電話 0241(62)6170
メール egao@nirami.ai.zu.or.jp

とに違和感を持つことでしょう。日常での関わりを振り返ると、少数派の脳のタイプを持つ子どもたちに、助けられる場面がたくさんあるからです。

子 育て世代包括支援センター「えがお」では、保育所や幼稚園など、現場の先生からお話しを聴く機会がたくさんあります。

行動や物事の捉え方は、大人の常識や枠に収まらない自由があるからこそ、興味深いのです。

二 ユーロ・ダイバシティとは、すべての脳にそれぞれ違いがあり、違いは優劣ではなく個性だとする考え方の総称です。脳の違いによって、それぞれ得意なことや苦手なことは異なり、違いを治療したり、修正したりする必要はないとされます。

少 数派の脳を持つ人々を、現代では「発達障害」と表現することが多くなりました。しかし、集団に合わせる力が持っていたり、誰も思いつかないアイデアを持ち合わせていることがあります。

み んなそれぞれ違うけれども、みんな大切な存在であることに変わりはありません。多数派と同じ扱いを強要するのではなく、子どもたちのタイプに合わせた対応が求められます。

現 場を訪問すると、感染症対応で厳しい状況でも、これまでと変わらぬ子どもたちの笑い声が聞こえてきます。子どもたちに寄り添う先生方があってこそ、安心・安全な日常生活だと実感する今日この頃です。

違 い(多様性)を認めることで理解が生まれ、新しい発見につながります。大人は、人に合わせるこの大切さや集団行動で学ぶことを重視して、そこからはみ出す行動を修正しようと努める傾向にあるようです。前述の保育士さんも、集団行動からはみ出してしまふ子どもと、どうやって関わればよいか悩んでいるようでした。

パ ソコンを例に考えてみましょう。マック(Mac)とウィンドウズ(Windows)のパソコンは、同じような見た目で同じような作業を行うことができます。ただし、マックでウィンドウズのソフトは動きません。同じようでも実際は違う…人にも同じことが言えます。

電 気・自動車・ワクチンなど、世の中を支える科学や技術の進歩は、脳の多様性が生み出してきた歴史です。脳神経科学の分野では、同じ物事の捉え方をするタイプの人が99%いる集団に課題を与えたとき、その課題は残りの1%の人によって解決されるということが何度も示されています。

些 細な違いで苦しむお子さんやご家族が、南会津町からいなくなるよう願っています。

さ て、ある保育士さんから「子どもたちと過ごしていると、ユニークな発想に驚かされ、予想もしない出来事が起こります。私が非常識だと思っていたことをひっくり返されてばかりです。同じ子どもは一人もいない。大切なことですね。」と、教えてもらう機会がありました。

集 団に合わせることや、一斉指導に適応することを学ぶことも必要ですが、今回は少し違った視点で子どもの発達を考えていきます。最近話題になっている「ニューロ・ダイバシティ(脳の多様性)」という考え方で。

脳 のタイプも多数派と少数派に分かれます。多数派ができない人の脳が壊れているわけではありません。

二 ユーロ・ダイバシティで子どもの発達を捉えるとき、集団行動に合わない子や緊張しすぎる子、場の空気を読めない子など、「苦しさ」が目立つタイプの子どもたちを「困らせる子ども」と捉えるこ

【おすすめ図書】



「かみさまからの おくりもの」
ひぐちみちこ／作

保 育のプロである保育士さんですら驚く、子どもの

育で世代包括支援センター「えがお」では、保育所や幼稚園など、現場の先生からお話しを聴く機会がたくさんあります。

行動や物事の捉え方は、大人の常識や枠に収まらない自由があるからこそ、興味深いのです。

数派の脳を持つ人々を、現代では「発達障害」と表現することが多くなりました。しかし、集団に合わせる力が持っていたり、誰も思いつかないアイデアを持ち合わせていることがあります。

みんなそれぞれ違うけれども、みんな大切な存在であることに変わりはありません。多数派と同じ扱いを強要するのではなく、子どもたちのタイプに合わせた対応が求められます。